自己評価票

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての事業所のあり方については、今までの理念の上に「地域の中で共に支えあい、共に歩む」を基本として位置づけをし、地域に開かれた施設として取り組み、質の確保を目指している。	○	積極的に地域活動に参加し、地域との交流に努め開かれた施設にしていこうと心掛けている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やカンファレンス及び、勤務終了時の報告などを通じて理念を共有具体化できるようにしている。またその思いを基に標語や心に残る言葉の共有等を職員全員で考え掲示している。	○	関わりや具体的なケアが、理念の実践となっているのかという視点で掘り下げて検討していくこと。心に残る言葉が共有出来る事で、職員間の足並みが揃っている事を実感できている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域推進会議や家族合同茶話会、法人の祭りや文化祭を通じ、利用者が行事や日常生活の中で地域に出掛けていることを知らせている。	○	地域推進会議及び茶話会の開催や家族の行事への参加を呼びかけている。形式ばかりでなく気軽に参加できる雰囲気を作っている。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑やお店に気軽に出かけ、お店や近所の人達と顔なじみとなり会話が弾んでいる。畑仕事を教えて頂いたり、お店の人と顔なじみになる等交流を深めている。地域の清掃や校区の交流等に声を掛けて頂ける様になった。	○	今まで築いてきたものを大切に、今後にお付き合いを発展させて行きたい。世間話や、情報交換のなかから親睦を深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会や民生委員の方々と連絡しあってお祭り、花見、七夕まつり、もちつき、ヤキイモ大会等に参加している。また、他地域からも声をかけて頂き、小学校の祭りに参加している。時には施設へお招きして、祭りや交流会などを行い行き来している。	○	学校、幼稚園、保育所等の行事に参加して子どもたちと交流の機会を多くし、地域活動に参加、交流を深めて行く。法人在介主催の介護者教室にて、認知症を理解する為の寸劇を行い普段大切にしている事を伝えられるよう取り組んだ。第2話の依頼もあり積極的に行なっていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人として地域への取り組みは行っている。 （募金活動・車マナーコンテスト・大規模災害の消防協力・緊急災害時の避難場所）	○	事業所として、高齢者の暮らしの安全確保に役立つことを話し合い取り組んで行きたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、指摘があった所はもちろん、出来ている事出来ていない事を再確認し、翌日から改善に取り組んでいる。また改善点も長期に有効活用出来る様にしている。	○	事業所の理念を忘れず職員一人ひとりの考えを活かし、同じ気持ちを共有したケアを心がけている。時に調査報告書を読み返し、振り返り、又、次の段階の取り掛かりとなる様にしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者やご家族に事業所での生活や暮らしぶりを写真や広報誌、ビデオ上映等で分かり易く報告している。また、利用者にも数名参加して実際の声を聞いてもらい、率直な意見を出してもらえる様に取り組んでいる。在介主催の介護者教室にて認知症の寸劇を行い、会場で発表した。	○	意見が出やすいような雰囲気作りに努め、今後もいただいた意見を真摯に受け止めサービス向上に活かして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北保健福祉総合センター及び北区地域包括支援センターとは研修会の開催や、ケースやプランの相談等連携は適宜行われている。	○	常に連携をとり地域のニーズや新しい情報を知り、地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう支えて行く。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域グループホーム勉強会や、文献などで学習している。	○	制度を活用するケースが増えてくることが予測されるため理解を深めて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止、虐待防止委員を設置している。委員を中心に全職員が学ぶ機会として勉強会で例を挙げて検討している。	○	閉鎖された空間の中、忍耐強く関わらなければならない状況にあって虐待に至らなくても、抱え込んでしまわない様に職員同士の支えあい、ストレスの発散など留意していく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づいて説明を行い、家族や本人に理解してもらえるよう努めている。	○	不安や疑問を尋ねるための時間や説明にはゆとりを持って行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員一人ひとりに何でも言える雰囲気作りや会話ができる様心がけている。	○	苦情や不満を利用者がぶつけられるように今まで以上の関係作りと会話が出来る時間、機会を設けていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	秀光苑だよりを３ヶ月ごとに発行し事業所の様子を伝え、家族面会時に個別的に近況報告、健康状態について話する。また、利用者のこづかい帳を閲覧してもらい、金銭の使い道について報告する。疎遠になりがちな家族に関しては手紙と写真を送る。	○	家族との信頼関係を深くできる様引き続き近況を報告していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族茶話会などを通して何でも言ってもらえる様努めている。出された意見を施設長・管理者・苑長にて検討し、現場リーダーに伝え反映できるよう努めていく。	○	利用者の為に家族との良い関係を作るために意見や希望などを聞いていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や勉強会で意見や提案を聞く機会を作っている。	○	今後も積極的に意見交換を行い運営に反映させて行きたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員全員がその都度、状況の変化に応じ、役職者の調整により柔軟な対応を講じている。各ユニットが協力し合って時間を作ったり、人員の調整に務める事が出来ている。	○	利用者の求めるものを必要な時に柔軟な対応ができるよう調整していく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみ職員によるケアを心がけているが、異動や離職がやむを得ない場合も引継ぎに努力をし継続したケアが行われるように配慮している。	○	引継ぎの期間を充分に取るようにしていきたい。「新しい風」を入れる、ととらえ新鮮な気付きもあり利用者が望むものに一歩づつ近づいていきたい。
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、非常勤職員ともに研修の機会を設けている。その内容は勉強会で報告され報告書として全員が閲覧するようにしている。また、書籍の貸し出しを行い自己学習に役立てている。そして勉強会のなかで担当者による心に残った詩・唄の披露は自分自身の気付きや振り返りになる事もある。	○	資格取得を目指す職員には勤務体制への配慮を可能にするための職員間の支援ができる様になってきた。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区においては北グループホーム会を作り、毎月１回会議を開催、情報交換、勉強会、事例研究、相互訪問、相互研修等行い活動を通じて事業所外の人材の意見や経験をケアに生かしている。	○	今後もさらに活発に活動し、グループホーム全体の質の向上と地域支援へと発展させて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長と職員また、職員同士なんでも言い合える雰囲気作りに努めている。勤務状況に応じ他ユニットに入ることでお互いのユニットの状況を理解し合えるように配慮している。	○	利用者から受ける喜びや感動、感激を共有し、働きやすい環境づくりを心がけていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修計画に基づき、勉強会を毎月行っている。介護技術等基本に立ち返る内容もあり、また、お互いに体験し合えることにも重点を置いている。そのうえで、ケアとして実践していく為にはどうしていくか利用者にどう重ねていくか、、、を検討することに時間を費やしている。	○	職員個々の努力や実績個性を認めプライドを持って働けるように、また得意とすることに力を発揮できる様業務分担にも配慮していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人からの訴えを傾聴し、受け止めるよう努めている。１人１人からの話し合いの中で求めている事柄を気付き、話しを聴く時間を作る。	○	初期に築く本人との信頼関係の重要性を理解している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が思っていること（不安なこと・希望する事）を理解具体化できるよう努めている。	○	信頼関係を築いていけるよう家族の立場に立って考え受け止めて行けるよう努力していきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要とする支援を法人全体で対応している。	○	緊急性を見極めた対応にも努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前年度はやむを得ず、すぐに利用となったケースがあった。	○	馴染んでもらうよう試行錯誤する事は職員自身、とても勉強になった。今後見学の段階から、体験利用なども含め徐々に馴染んでいけるように対応を考えたい。
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な関係ではなく、常に利用者がどう思っているかを考え、敬う気持ちを大切にしている。共に過ごす家族として学び支えあう関係を築けるよう努める。	○	利用者からの気遣いや、様々な配慮や優しさに触れ職員は多くのことを学んでいる。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には支援されているという負い目を感じないよう配慮している。来訪時には若い頃の話を聞いたり一緒に活動したりと本人と共に楽しめる様また、いつでも来れるという雰囲気を作っている。本人の言葉や動作に家族や他の利用者・職員が大喜び・大笑いする和やかな時間がある。	○	家族の様にはなれないかも知れないが、家族の想いに近づく努力を続け、一緒に本人を支えられる様努めたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になりがちな家族に対しては手紙と一緒に写真も同封し、連絡が取りあえるようにしている。遠方の家族には電話や手紙のやり取りを勧めている。	○	必ずしも円満な関係ばかりではないが、その方の現在のありのままの姿でいることを支えまた、その事を伝える事でより良い関係を築けるようにしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室・理容店があり、その地域で馴染みの方々が出来ているので、その関係が持続できるようにしていきたい。	○	「なじみ」の場所や人を持ち続けることができる様努め、地域と関わっている雰囲気を作っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の個性や相性、想いを理解することに努め、孤立やトラブルのないよう努めている。特に家事など誰もが何らかの形で関わるようにしてお互いがお互いの事を行っている、という実感を持つ事ができる様努めている。	○	利用者の個性を理解し支えあう関係作りができる様支援していく。時に個性がぶつかり合うこともあり、一緒に住んでいれば色々な事がある。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所の馴染みの方やゆかりのある方との関わりを大切にしている。	○	今後も関係を持続していけるように付き合いを続けて行きたい

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉だけではなく、表情や仕草など気付いたことを職員間で共有し、本人の思いを知るために把握、検討に努めている。	○	その時々によって変化する希望や意向を職員間で検証し、検討していきたい。男性利用者は日記や手帳に記す事で自分自身の想いを整理できる様になった。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思い出話や家族との会話の中から生活歴や習慣などの把握に努めている。	○	その人が行きたい所ややりたい事を日常の暮らしの中から少しでも把握できるようにしたい。利用者・家族と共により良い関係を築く中で把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の何気ない会話や表情を読み取り、行動に気を配り心身状態を把握しカンファレンスを行う。また、退院間もない方にも本人の状態、ペースに合わせた対応を行っている。	○	ケース記録、事業日誌、連絡ノート等を活用し日々の関わりの中で心身ともに変化を見逃さないよう努める。本人のペースに合わせた支援を心がけ時間をかけながらでも「やりたい」事を引き出していきたい。「できない」と職員側で決め付けるのではなく職員はどこに力を貸したらできる様になる、という視点から、本人の状態を把握する
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの情報のみならず、日常の会話や行動及び職員が集めた情報をもとに、本人や家族の思いに沿って計画を作成している。また、家族の訪問時には近況を伝えると共にプランについても話し、確認を取っている。医療面は看護師と話し合う。	○	必ずしも関係者が一堂に会することばかりではないので日頃より広く意見を集めるようにしている。今後さらに記録やモニタリングを通して次の介護計画へとつなげている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の遂行状況・効果などを評価すると共に、見直しの必要がある時は随時カンファレンスを行いモニタリングの結果、計画を見直すようにしている。夜間の対応で見落としがちになっているところは夜間の申し送りの用紙（夜勤者の皆様）により確認してもらっている。	○	話し合う機会をすぐに設けるのが難しい場合もあるが面会時に短時間でも話し合う機会を設けるなど、工夫して家族とのモニタリング・カンファレンスを行なっていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をケース記録に詳しく記載しており、情報の共有や見直しにたいへん役立っている。また１日ごと、特に夜間の様子を把握する必要のある利用者に独自の記録用紙を使用した。	○	考察欄を活用して気付いた点など下線で分かりやすく記すことにより、即ケアに繋がる記録となっている。
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の必要な支援には柔軟に対応している。医療連携体制を活かし利用者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、退院後の回復への支援、薬剤の検討、医療処置を受けながらの生活継続、重度化した場合や終末期の入院の回避。特に歯科医は協力機関であり本人や家族が納得できるまで治療、処置を行っている。	○	状況に応じてのショートステイの受け入れを開始した。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	出初式参加や、小・中学校との交流を行なっている。	○	もっと多くの協力機関を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて対応や協力は行いたい。	○	必要が生じたら速やかに対応していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには地域推進委員会にも出席を得て、必要な情報を提供してもらったり、近隣事業所との情報交換の場を設けてもらい、良い交流の場となっている。	○	地域包括支援センターと協働することにより地域の状況把握に努める。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持たない利用者は本人・家族同意のもと診療所管理医、協力医療機関等の医師としている。定期受診で家族同行不可能な場合は職員が同行している。歯科訪問診療を定期的に受診し継続的な医療を支援している。かかりつけ医に検診結果など情報提供を行い負担になるような二重検査を防いだり治療の参考にしてもらっている。	○	今後も家族との連携を密にしたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医の診療を受けている。利用者に関する相談も職員はアドバイスを受けている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	苑長・看護師兼務となっている。	○	看護師は利用者の平素の状況の把握に努め、変化をキャッチする職員の声に耳を傾けて行くこと。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際、看護、介護サマリーの提出により利用者の情報を医療機関に伝え、治療・療養が継続できるよう配慮している。また、入院中は状態に応じ面会を行っている。	○	医療機関から情報を得ながら早期退院ができるよう働きかけていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の関わりの中から本人及び家族の意向を早い段階から汲取り、事業所が対応しうる支援方法を示しながら家族、本人と話し合いできるだけここでの生活が続けられるよう職員間で方針を共有している。	○	入居期間が長期化しており重度化してきているように感じられる。重度化・終末期の支援について自己研鑽を積んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の状態・家族の希望をふまえ、事業所が対応しうる最大の支援方法を職員間で明らかにし、それが重度や終末期の利用者にとってより心地良く暮らして行ける手助けになるか話し合っている。	○	一人ひとりが問題を抱え込んでしまうことなく、チームで支えるという意識を持って取り組んでいく。チームみんなが優しい気持ちと暖かい心を伝える技術を最大限に発揮できるようにしていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの希望があった場合、利用者本人と何度も話し合いを重ねると共に家族の意向も踏まえダメージを防ぐよう努めている。他のグループホームや施設からの入居に際しては生活状態、状況、サマリー等を参考にし、環境の変化を最少限度にとどめるよう努めている。	○	現在の取り組みをさらに充実したものとし、ダメージを防ぐ。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** （１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りとは何かを考えながらそれらやプライバシーを損ねることのないような関わりができる様に、職員同士もお互いに声を掛け合い意識の向上に努めている。また、記録等の書類は厳重に保管している。	○	人生の大先輩であるという意識を常に持ち、症状がその方の全てではないことを念頭に置き、受け止める心やその人らしく生きて行けるような支援を心がけ実践していく。今後勉強会で自己点検も取り入れ誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意見を尊重すると共に、自分の意見が言いづらい人や自己決定しづらい人の意思を汲み取れるよう努めている。想いや希望をストレートに表す人・遠慮がちに表す人・後から伝えてくる人、、、など個々に応じた自己決定の支援を行なうように努めている。	○	食べること，着ることはもちろん行きたいところ、したいこと等、毎日の生活が自分で決める経験の積み重ねとなるように選択肢を投げかけていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、食事、消灯の時間は一応設けているが、本人の希望、体調、ペースに配慮しながら柔軟に対応している。	○	職員の勤務体制に利用者の生活を当てはめるのではなく利用者の２４時間・３６５日の生活の中に職員が入っているという基本を忘れないようにする。
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみに関しても髪を伸ばしたい方にはその意向を受け止め、起床時や入浴後は、髪を束ねたりとおしゃれの気分を味わってもらっている。また、家族に相談し衣服の好みで持って来て頂いたりと工夫している。	○	重ね着をし汗をかいている方に対して、本人の好みを尊重しながら、日常的に清潔な衣服で過ごせる、様な言葉かけの工夫をしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや、食事の好き嫌いも配慮しなるべく全員が美味しく食べる事のできる様なメニューを考えている。食事一連の過程の中で、何らかの役割を持つ様に働きかけている。汗を流して収穫した野菜や果物がテーブルを飾り、食材から季節・時事内容に至るまで会話は進み月日や時間を勘違いされている利用者へごく自然な形で伝える事が出来る。	○	一人ひとりの好みや得意なこと、逆に苦手なことも検討し、みんなが一つになって作り、美味しかったり楽しかったら食が進む、、、という当たり前の事が実感できる喜びもある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に応じ一人ひとりが日常的に楽しみ満足できる様にかかわっている。お茶の時間には好みの飲み物を提供できるよう、また、コーヒーや紅茶のお砂糖やミルクまた濃さも自分で加減している。	○	お酒を嗜む程度の晩酌で夜の時間を楽しんでもらえるようにしている利用者もいる。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレで排泄が出来るようにタイミングや、本人の表情・仕草・行動から尿意のサインを見逃すことなくトイレで気持ちよく排泄できる様支援している。	○	自分が支援される立場であったらということを忘れないようにしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人のお風呂に入りたいという気持ちを尊重しいつでも対応している。ある利用者は入浴時間を見直すことにより、しっかり目覚めた状態での入浴のため介助が半分になった。個別対応の大切さを学んだ。	○	「大丈夫ですか」の言葉掛けや背中を洗い流したり、洗髪の手助けを行ったりしながらも、ゆっくり湯船につかる時間も配慮している。又、入浴は、お互いのいいコミュニケーションの場ともなっている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	「眠れない」と訴えられる利用者には、よく話を聞き暖かい飲み物を勧め気持ちを落ち着かせてもらうなどの工夫をしている。日中居眠りが多い利用者の睡眠パターンを調べ検討・見直しをした。家族と相談し、就寝・起床時間を見直すことで生活リズムが整うよう働きかける。	○	眠れない本人の気持ちを配慮し安心して過ごせる様関わっていく。
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書く事が好きな方には、日捲りカレンダーや毎月の行事予定、詩の書写、日誌等。ドリルや塗り絵等を勧め出来上がった作品を居間に展示し達成・満足感が得られる様に働きかける。食事・洗濯等何らかの形で役割が持てる様にし、実際の行動はなくとも「洗濯するのでお留守番よろしく」「この漢字はどう書くの？」等形に残らない役割も重要と捉えている。	○	朝・夕のＮＨＫの体操の番組等で、ユニットの方々と一緒に体を動かす機会も増やして行きたいと考える。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お財布を自分で持っている利用者は１名だが外食・買い物の際にはあらかじめお札をいれた財布を渡す人、札・小銭が混じった財布を渡す人など個々に応じた場面を作っている。また、小遣い払い出し伝票には現金確認と受け取りサインをしてもらう事で普段は意識しない「お金」というものの大切さを思い出してもらう機会としている。	○	お金に対し関心のない方でも新聞広告や雑誌などで会話を楽しんでいる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散髪はもちろんのこと本人の希望に応じて季節を感じてもらえるようにお弁当やおやつをもって戸外に出掛けたり、予定は立てていなくても天気の良い日は１階の玄関まで行って外気浴をしている。	○	外食や催し物への参加などで外出する楽しみをもっと増やして行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大泉緑地にヒーリングガーディナーに誘いを受けて出掛け、普段とは違う場所で、食事をしたり散策して楽しんでもらえる機会を作っている。	○	希望を反映できる機会を増やしていきたい。貸し切りバスでの小旅行は今後も続けてゆきたいと思っている。外出する時に家族にも参加してもらっている。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙には近況報告だけでなく家族会や行事の誘いも載せている。遠方の家族に対しても、手紙や電話のやり取りの支援を行なっている。	○	文章のみならず写真なども同封し近状をお知らせする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気持ちのよい挨拶を心がけ、ゆったり静かに過ごせるよう配慮し、時には本人と家族だけの場面を作るよう心がけている。	○	自室で過ごされることもあるが、居間で他者を交えて談話をされたりと自由に過ごしてもらっている。
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で指摘し合えるような雰囲気作りを心掛けている。また委員会を設置し何が身体拘束なのか勉強している。日々のケア、声の掛け方が身体拘束になってはいないか振り返る機会を事業所の勉強会の中ににも設けている。	○	今後も勉強会や研修で身体拘束と虐待についての理解を深め確実なものとしていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に出入りできるように日中は玄関のカギを開け自由な暮らしを支援している。夜間は施錠することで特養との防火扉となっている。２～６階を行き来する利用者は自由にエレベーターを使いまた、階段を使用する際はさりげなく見守り付き添っている。	○	行きたいところへ行く自由さと安心をもってもらえるようにしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が自由に歩き回るのをそっと見守ったり、特養の職員に依頼するなど様子を把握しつつ自由に過ごせるよう配慮している。また、夜間は巡回や職員室のモニターで廊下の利用者の様子を把握するようにしている。	○	安全面とプライバシーの配慮、この二つを両立させる為に職員間でも連絡を密にし安全かつ不快な思いをさせない暮らしの支援をして行きたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗浄液等の危険なものは鍵のかかるところに保管している。	○	利用者の危険を防ぐ為に、日頃から職員間で声を掛け合い、意識の向上に努めて行きたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書や事故報告書の検討や対策を職員同士で行い参加できなかった職員に後日確認し確認印をすることで今後の防止に努めている。また、日々の申し送りやケース記録にも記入することでより意識づけとなるようにしている。	○	事故があったときには速やかに対策を立て、他ユニット、特養の事故なども伝え合うことで事故の再発防止に努めていきたい。職員間の情報や、連絡事項をしっかり行なうことで危険因子を少なくしていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、入浴時の急変時対応表、体調不良時のチェックポイントを置き活用するようにしている。勉強会で知識を得て実体験をすることで、より現場に対応できるようにしている。	○	職員が緊急時に落ち着いた対応ができるよう日頃から心がけるようにしたい。毎年、危険に対しての備えを増やしていくために、誤嚥時、転倒時の対応マニュアルと受診時の流れチャートを作成した。訓練を積んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し定期的に消防署の協力を得て消防避難訓練を行っている。また、運営推進会議等で地域の方々に協力を得られるよう働きかけている。様々な訓練を行うことにより、どんな状況でも対応できるよう努める。	○	近隣住民の協力も得られるよう働きかける。毎年、新たな災害に備える様に訓練や備蓄品のチェックを行っている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	その人らしさを維持する支援とそれをかなえる為にリスクはつき物だが、いかに抑圧感を排除できるかを念頭に置きながらその都度、家族に説明している。	○	家族が気兼ねなく訪問することで家族も共に支えているということとリスクの理解を深められるよう話し合いの機会を随時作っていきたい。
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言葉だけではなく表情、歩行、排泄、食欲、声の大きさなど一つ一つの動作から体調の異変に早期に気付くよう努力し、速やかに連絡を取り合っている。	○	一人ひとりの体調の変化に合わせた対応が行えるよう情報の共有に努めている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報表を作成し、理解に努めており症状の変化があれば看護師に連絡している。確実に服薬できる様ひとりひとり方法を検討している。	○	配薬時に名前と日付を確認し、誤薬のないように声を掛け合っている。新たな薬剤が開始となる時は、おこり得る症状や変化を把握・観察し必要な情報を看護師に提供できる様努める。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	服薬や浣腸だけに頼らないよう、飲食物の工夫し、その人に合った対応をしている。また排便を促せるよう便座に座ってもらう時間等の調整もしている。	○	看護師と連携しながら薬の調整を図っている。起床時の冷たい飲み物やヨーグルト・牛乳等も勧めている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	居間に各自のうがい用コップを用意している。自力で難しい人には毎食後ケアを行っている。定期的に歯科医の往診がある。	○	定期的に歯科受診をしており、義歯の状態の把握、調整を行っている。また、歯科衛生士の職員がおり専門的な情報の共有、対応の指導をおこなってもらっている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士が献立を作成している。水分摂取量は表を作成し、本人必要量を理解した上１週間単位で状態が把握できるようにしている。表は記入するだけではなくさかのぼって確認し摂取状況を把握しておく。	○	苑長・リーダーは法人内給食会議にて食事内容について各部署の意見交換・検討を行い、より良い食事の提供となるよう努力していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	手洗い、うがいの奨励や布団の乾燥、空気の入れ替えなどを行っている。また、感染症には予防マニュアルを活用している。	○	習慣的、継続的に行えるようにしたい。また予防と早期発見に努める。併設施設の感染症、発症状況を速やかに把握して持ち込まないようにしていく。職員の職業意識に鑑み自ら健康管理にも努めていく。 また、新たに委員会を法人にて設置し現在Ｑ＆Ａの作成に取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な台所の消毒や冷蔵庫の清掃を行い賞味期限の確認など基本を忠実に守るよう努力し衛生管理に努めている。保存している食材には日付を必ず記入している。また食品衛生責任者の資格を持つ職員の指導も受けている。	○	食器やまな板、布巾等毎日消毒出来る所を増やして行きたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の植木や花を飾ったりして、皆が安心して出入りできる空間を作っている。陵東館秀光苑の表示板は最高年齢者の方が書道教室で書いてこられたものである。	○	特養を経由しての玄関ということで分かりにくいという見方もあるが玄関を出ると、馴染みの特養・ショートステイの方々、、、という安心感にも繋がっている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビはみていない時は消すようにしている。季節にあった植木を置いたり生活の中で育てる喜びや一緒に共感できる様に取り組んでいる。日常の生活音、匂い、音楽、季節感を意識的に且つ自然に取り入れている。	○	利用者がより良く過ごせる様に配慮し、どうすれば居心地よく過ごせるか日々心がけて取り組んでいきたい。また、職員も「人」という環境であるという事を意識していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはテーブルと椅子の他、ソファーをおいておりいつでもゆったりと過ごせる様に配慮している。肘掛け椅子の配置を検討したり、小テーブルを利用したり一人ひとりの居場所が確保できる様にしている。	○	廊下に置いてあるソファーは朝起きて来られる方を待ち、就寝前は語らいの場となっている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドに赤ちゃんを寝かしている事により自室へ戻った時の安心感が赤ちゃんへの優しい言葉かけとなっている。家族（妻や孫）と一緒に撮った写真があることで家族とのつながりを実感されている。	○	その人らしい生活観のある雰囲気作りに努めて行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の方に「寒くないか」「暑くないか」を尋ねるようにして、その都度、温度調節を行うようにしている。また、台所を使用する時は必ず換気をしている。	○	個々の利用者のかたによって体温調節が違うのでそれをふまえた上で常に温度には配慮していく。また、自然の風が通るように風のある日は窓を開ける様に心がけている。
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ居間などに手すりを設置。身長、体型に合わせた椅子の使用。	○	廊下や居間、トイレの手すりを活用し安全な歩行で自分でトイレや自室へ行けるよう見守っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事作りや後片付け等の一連の動作を利用者同士は、お互いに協力しながら行っている。また、名前をはっきり書くことで、洗濯物の仕分けがスムーズに行なえている。	○	手帳に記すことで忘れてしまっても、それを見て安心して混乱を免れたり、記されている事で薬は何時に飲むということが理解出来る利用者に記すことを勧めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで季節ごとに植物を育てており初夏にはアジサイの花が、今はヘチマを育てており、伸び具合や実が付くのを楽しみにしている。	○	天気の良い日は外回りを歩いて外の空気を味わってもらう。ヘチマを育てツルが伸びることで育てる楽しみをまた、窓のそばに立てて日除けにすることで環境問題にも関わっていきたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

「大切な家族」であるという事を一人ひとりが理解しあい、暮らしの中で安らぎや共感を得られるような関わりをしている。一人の利用者の方（介護度が高い方）に介助や支援が偏ってしまいがちなところを、他の利用者の方に対しても様々な手段でコミュニケーションをとることで、一人ひとりがかけがえのない存在であることを感じてもらえるよう、心掛け、取り組んでいる。買い物や、外食など外出する時は、お互いに気にかけて、「大丈夫？」「足元気をつけて」など声を掛けあい、相手の事を思いやる良いきっかけになっている。また、４月にはお花見・５月は藤の花など公園や玄関にでかけて花をみたり、外気に触れ季節を感じてもらえるようにしている。食器洗い、洗濯たたみなど身の回りのことを、一人ひとりが役割を持てる様関わり、今のこの場所が、その人の居場所になっていく様に個々人の役割を重視している。カレンダー作りや書写などそれぞれの得意な興味のある分野で活動してもらい喜びや誇りを持った生活ができる様に職員全員が取り組んでいる。また家族も御本人にとってかけがえのない大切な支えなので、関わりが途絶えない様、手紙のやり取り、行事の連絡、広報誌の送付などを行なっている。また、家族との関係をより良く持つ為に話し合いの機会を設け納得と理解の輪を広げることができる様に努力している。
　また近年環境問題にもある様に、冷暖房の調節や自然の風を取り入れたりすることで節電を心がけたり、使わなくなった支障のない資料の裏紙をメモとして使用したりとエコロジーにも留意している。